

特集：IEC(国際鶏卵委員会)について



世界の有力な鶏卵生産者団体や生産者が組織している IEC (International Egg Commission/国際鶏卵委員会) について特集致します。IEC には鶏卵生産者、鶏卵加工業者、関係業者等誰でも入会でき、年に 2 回世界各地で総会を開催し、鶏卵関係での最新情報共有を行っています。日本からも毎回 10 人以上の参加があるため、同時通訳により会議が進められています。

今年の 9 月にクアラルンプールで開催される IEC 秋季総会の参加費は 1 人当たり 995 ポンド (約 16 万円)、で会議費 (講演会費)、歓迎レセプション、夕食会、昼食費、バスツアー費等を含みます。宿泊費・交通費は各自負担となります。参加にご興味ある方は、日鶏協事務局にご連絡下さい。

1. 設立と目的

1964 年にイタリアのボローニャで開催された第 2 回国際鶏卵会議において設立され、以下の目的達成のために現在まで活動しています。

- ・世界の鶏卵関係業者間の共通の利益のための、国際的な協力を助長する
- ・殻付卵と鶏卵加工品の市場基準の国際的な統一を推進する
- ・殻付卵と鶏卵加工品の食品衛生を推進する
- ・国際的な貿易問題を調査し問題解決の支援を行う
- ・栄養や食品衛生のレベルが不十分である国々での国際機関による活動を支援する
- ・全ての国々での殻付卵と鶏卵加工品の消費を向上させる
- ・採卵鶏の動物福祉改善を推進する
- ・環境保全活動を推進する
- ・国際機関との関係を確立し、維持する
- ・鶏卵産業の利益のために IEC が対応することがふさわしい問題については、分析してリーダーシップを発揮する

2. 会員国

世界 80 か国以上の加盟国があります。 現状は下記を参照

<http://www.internationalegg.com/about-us/countries-involved/>

3. 組織

IEC は執行理事会によって運営され、総会に報告されます。 執行理事会は本部員、長期戦略委員会メンバー、専門委員会（生産、国際鶏卵加工品、マーケティング、エコノミックス、とメンバーシップ）の各議長により構成されています。

会長

現在の会長はオランダのベン・デラエルト氏で、任期は 2015 年 9 月～2017 年 9 月までの 2 年間。 同氏はオランダで 2013 年に設立された家禽・鶏卵団体である AVINED, OVONED & PLUIMNED（オランダ家禽協会）の理事を勤めています。 これらの団体は家禽肉と鶏卵関係者（生産者、孵化業者、親鳥加工業者、GP や加工業者等）による生産チェーンを代表する団体となっています。 2007 年から 2014 年にかけて同氏はオランダの鶏肉・鶏卵生産委員会の常務理事でした。 但しこの組織は 2014 年に廃止されました。

本部員

本部員は全ての政策決定と協会の長期的戦略に責任があります。 会長、副会長とメンバーシップ委員会より指名された 3 名以内の人々によって構成されています。

会長 ベン・デラエル （オランダ）

副会長 ティム・ランバート CEO カナダ鶏卵生産者協会 （カナダ）

本部員 アンドリュー・ジョレット ノーブルフーズ取締役、英国鶏卵協議会 (BEIC) 会長 （英国）

本部員 スレッシュ・チツリ スリニヤサ・ハッチャリーズ 常務 （インド）

本部員 スティーブ・マントン IEC 地域代表 （米国）

執行理事会

執行部は上記の本部員 5 名と専門委員会の委員長 5 名の合計 10 名で構成されて

います。 IEC には下記の組織、専門委員会があり総会時にはワークショップを開催します。

1) **EPI(Egg Processors International/国際鶏卵加工業協会)** 会長：ヘンリック・ペダーセン (デンマーク)

EPI は世界中の鶏卵加工業者を代表する IEC の部門です。

2) **エコノミックス委員会** 委員長：セルジオ・チャベス (メキシコ)

世界の鶏卵産業に関係する経済データや傾向に関する集積、分析や公表を担当します。この委員会は 2 人の著名な研究者によって支えられています。IEC 経済アナリストのハンス・ウインドホスト (ドイツ、ベッチャ大学教授) とピータ・バン・ホルン (オランダ、ワゲニンゲン大学教授) 両氏です。IEC は定期的に主要な分析と経済データを公表 (印刷及びネット) しています。

3) **メンバーシップ委員会** 委員長：フランツ・ホファー (オーストリア)

鶏卵に関する世界的な情報拡大のために、IEC 加入者を増やすための委員会です。この委員会では会員種別に関わりなく、入会に関しての全ての質問に答えます。

4) **生産委員会** 委員長：グレッグ・ヒルトン (米国)

世界中からの直接鶏卵生産に影響する全ての事柄についての、決定を行います。それらは生産基準、動物福祉、鳥インフルエンザや鶏卵と鶏卵加工品貿易等に関する事柄です。この委員会は 2006 年の総会において従来あった、生産委員会と国際貿易委員会の統合によって誕生しました。またこの委員会が世界的に著名な以下の NGO との連携を保っています。

OIE(国際獣疫事務局)、WTO (世界貿易機関)、ISO (国際標準化機構)、OFFLU (OIE-FAO 連携鳥インフルエンザ対策機関)、CGU (国際消費フォーラム)、CODEX (国際食品規格委員会)、FAO (国際連合食糧農業機関)

5) **マーケティング委員会** 委員長：ケビン・バークム (米国)

世界中の全ての国々においての鶏卵と鶏卵加工品のマーケティングを改善するための委員会です。会員による情報共有や主要なマーケティングや業界に関する講師をワークショップに招くこと等を行っています。またこの委員会では

「世界たまごの日」の運営と毎年の IEC マーケティング賞受賞者選定等も行っていきます。

地域代表 (Ambassadors)

世界各地で IEC の活動を普及させ加入者を増やすために、現在 14 名の地域代表 (Ambassadors) が指名されています。

4. IEC の関係団体

国際鶏卵機構 (World Egg Organisation)

この機構は鶏卵に関わる国際的な諸機関を連携する団体です。これに参加するのは IEC が創設に関係した以下の様な団体です。

- 1) IENC (International Egg Nutrition Consortium/国際鶏卵栄養学協会)
IEC の会員であれば、誰でも会費なしで、参加できます。この協会の目的は以下の 4 つとなっています
 - ・鶏卵の栄養学上の学術的情報 (研究や教育的プログラム) の共有
 - ・非常時の際の情報提供
 - ・データーの活用化
 - ・国際的な専門家の育成運営の中心は米国鶏卵栄養学センター所長のミッチ・カンター博士です。
- 2) IEF (International Egg Foundation/国際鶏卵財団)
IEC により設立された援助団体で、高品質のタンパク質食品を必要としている発展途上国での地産を増加させることを目的にしています。
- 3) EPI (Egg Processors International/国際鶏卵加工業協会)
- 4) GRSE (Global Roundtable for Sustainable Eggs/国際鶏卵生産維持円卓会議)
- 5) WED(世界たまごの日実行委員会)
1996 年の IEC ウィーン総会の際に毎年 10 月第 2 金曜日を「世界たまご

の日」とすることが決定されました。2016 年は 10 月 14 日となり、子の日を祝うために、統一シンボルマーク等が用意されています。

5. IEC による声明

世界的な問題に対する IEC としての意見声明を何回か出しています。

- 1) CSR (Corporate & Social Responsibility/企業の社会的責任) について (2012 年 3 月ベニス総会)
- 2) 飢餓問題について (2010 年 4 月パリ総会)
- 3) 鶏卵生産と動物福祉について/生産者の立場から (2006 年 9 月グアダラハラ総会)
- 4) 鶏卵生産について (2009 年カナダ総会)

上記の内、最近では一番新しく出された「CSR について」では下記が表明されています。

世界の鶏卵生産者を代表して IEC としては人間、家畜と地球のそれぞれの必要性のバランスをとりながら、社会的責任を以下の様に定義する。

我々の社会的責任を評価する際には、我々は以下の事柄に注目を払う

- 1) 安全に高品質なタンパク食品を生産すること
- 2) 増加する人口に対して食料供給を行い、食料自給を保証すること
- 3) 優良な製品を供給すること
- 4) 環境に配慮すること
- 5) 採卵鶏の健康と快適な存在を保証すること

6. 最近の IEC 総会

| | | | |
|--------|------|----------|---------------------|
| 2013 年 | 春季総会 | 4/7-10 | マドリッド (スペイン) |
| | 秋季総会 | 9/22-26 | ケープタウン (南アフリカ) |
| 2014 年 | 春季総会 | 3/30-4/1 | ウィーン (オーストリア) |
| | 秋季総会 | 9/7-11 | エディンバラ (英国/スコットランド) |
| 2015 年 | 春季総会 | 4/12-14 | リスボン (ポルトガル) |
| | 秋季総会 | 9/20-24 | ベルリン (ドイツ) |
| 2016 年 | 春季総会 | 4/3-5 | ワルシャワ (ポーランド) |

7. IEC 総会に出席して

直近の IEC ワルシャワ総会に参加された赤木理事に、参加についての感想を寄せて頂きました。

IEC ワルシャワに参加しての感想

理事 赤木八寿夫

4月4, 5日にポーランドワルシャワに行ってきました。ポーランドという国は耳にすることがあっても行く機会もありませんでしたし、歴史的なことを知ることもない国で、知識としては「東ヨーロッパの社会主義の国だった」くらいのものでしかありませんでした。しかし行ってみると社会主義時代に建てられたであろう古臭いビルの隣に近代的なビルが立ち並ぶというなんともアンバランスな近代的な街でした。

さて今回は春のカンファレンスということで二日間ととても短い期間でしたが学ぶものはとても多いものでした。二日間を通じて私が感じたのは「サステナビリティ」(注: 持続可能性を意味する。企業分野では、利益を上げるだけでなく社会的責任を果たすことで、将来においても事業を存続できる可能性を持ち続ける、という意味で用いられる。) がテーマだったように思います。今から 5, 6 年前から感じていたことですが IEC には表に出るわけではありませんが何か大きなテーマがあります。少し前は環境問題がテーマでしたし、それが CSR (企業の社会的責任) になり、環境問題に AW、エネルギー問題と変化していきました。そして今回は「サステナビリティ」になったことで鶏卵業界がこれから先どのようなテーマを課題として解決していかなければならないかになったように思います。

環境問題に対しては世界的な窒素の増加をどのようにコントロールするのか? といった講演もありましたし、ひとつの建物の中で飼育、集卵から鶏糞の処理まで終わらせる設備の取り組みの紹介があったり、鶏糞を使って発電をする仕組みの (ヨーロッパでは窒素、アンモニアが問題になっている) 紹介もありました。餌の確保というテーマでは昆虫を蛋白源とする講演もありました。今まで思いもつかないことを実現しようとしているところがあるんだなあと感心したところでした。

世界の貧困問題もテーマとなっており、実際にアフリカで食べるものに苦勞す

るところに養鶏場を作り食べ物を作るとともに販売によって利益を得る仕組みを作り、子供たちが家の手伝いをしなくても生活が出来るように整えてあげた様です。そして子供たちは学校に通い勉強ができる環境をつくってあげた訳です。病気も重要なサステナビリティのテーマであり、昨年アメリカで AI の大発生があったためか、かなりたくさん時間を割いて AI に対する講演がありました。世界的な発生の様子、世界的な情報交換のための組織の設立などの発表、説明が行われました。バイオセキュリティに関しても新しい理論、新しい設備などの紹介などなどとても興味深いテーマの発表が数多くなされました。また発生による経済損失のインパクトなど金額に置き換えて見せていただいたので改めて世界的に AI は大きな問題だと認識が出来ました。

また**餌問題は国際的なエネルギー問題**に関連付けられて石油価格の動きと連動して穀物相場が動く。そのためにどのようなことをしなければならないか、具体的にはいかに穀物を確保するのかという、穀物を輸入に頼る日本には死活問題になるかもしれないテーマについても講演が行われました。また穀物は気候の動きにもよっても連動しますので世界的な気温の変化に敏感でなければならないし、これが気候温暖化、ひいては二酸化炭素の問題につながる講演も行われました。

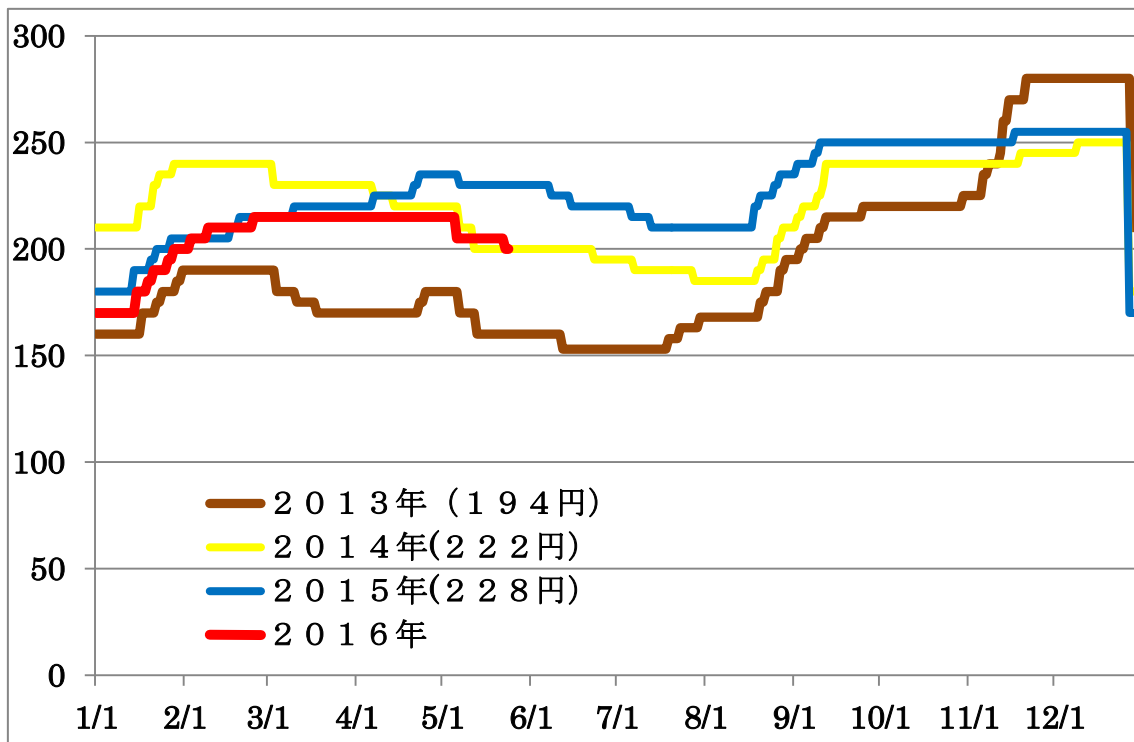
私たち生産者はいかにして卵を作るか、いかにして卵を売るのかに多くの時間を費やし、考えているけれど、将来を考えて、そしてその将来とは自社もちろん重要であるけれど、時々、少しの時間でもいいから鶏卵産業の未来、そしてそれは日本だけではなく世界的な鶏卵産業の動き、未来を考えることが必要なのでは？と改めて感じさせられたカンファレンスでした。そして私自身はまだ使い慣れていない「サステナビリティ」という言葉を鶏卵産業に置き換えてイメージできた貴重な経験でありました。これから東京オリンピックを控え日本を世界に売り出すのに「サステナビリティ」がいろいろなところで使われると思います。事実日本の世界的な企業、大きな企業は「サステナビリティ」をスローガンにしているところもあります。ちなみに次回の IEC は 9 月にマレーシアで行われます。ヨーロッパに比べれば近場と言えなくはないので、興味のある方は参加されるといいのではと思います。

【相場動向】 過去 10 年間の 4 月相場

| | 平均値 | 高値 | 安値 |
|-------|-----|-----|-----|
| 平成19年 | 168 | 175 | 165 |
| 平成20年 | 193 | 200 | 190 |
| 平成21年 | 173 | 180 | 170 |
| 平成22年 | 177 | 190 | 170 |
| 平成23年 | 245 | 260 | 240 |
| 平成24年 | 182 | 190 | 175 |
| 平成25年 | 172 | 180 | 170 |
| 平成26年 | 223 | 230 | 220 |
| 平成27年 | 227 | 235 | 220 |
| 平成28年 | 215 | 215 | 215 |
| 平均値 | 198 | 206 | 194 |

平成 28 年 4 月の鶏卵相場（東京全農Mサイズ）は 215 円と先月より動かない相場となりました。これは昨年（平成 27 年）の 4 月より 12 円安となりました。

【鶏卵相場推移 2013 年～2016 年 会計年度 東京全農 M サイズ 円/Kg】



1 月以降、過去 2 年間よりは低いレベルで推移していました。5 月の大型連休も明けて、徐々に下がってきました。

【鶏卵関係主要計数】平成 28 年 3 月までの 1 年間の主要計数推移

| | 雛餌付羽数(出荷) | | 配合飼料出荷量 | | 家計消費量 | | 鶏卵相場 | |
|-------|-----------|--------|---------|--------|----------|--------|-------|-----|
| | | | 成 鶏 用 | | 一人当たり | | 東京全農M | |
| | 数量 (千羽) | 前年比 | 数量 (千ト) | 前年比 | 数量 (グラム) | 前年比 | 本年 | 前年 |
| 4月 | 8,411 | 95.9% | 479 | 103.5% | 838 | 107.0% | 227 | 223 |
| 5月 | 8,989 | 101.6% | 451 | 94.9% | 856 | 100.0% | 230 | 204 |
| 6月 | 9,084 | 102.8% | 454 | 101.6% | 803 | 94.5% | 223 | 199 |
| 7月 | 8,831 | 99.6% | 461 | 102.3% | 818 | 101.1% | 213 | 190 |
| 8月 | 7,502 | 103.0% | 427 | 100.2% | 805 | 100.5% | 219 | 192 |
| 9月 | 8,444 | 95.6% | 455 | 101.0% | 802 | 97.2% | 247 | 231 |
| 10月 | 8,862 | 104.3% | 476 | 97.6% | 851 | 103.9% | 250 | 240 |
| 11月 | 8,518 | 104.7% | 461 | 101.6% | 842 | 99.8% | 252 | 242 |
| 12月 | 9,070 | 103.0% | 518 | 97.1% | 850 | 96.7% | 255 | 248 |
| 28年1月 | 8,317 | 97.8% | 448 | 96.9% | 833 | 108.9% | 182 | 192 |
| 28年2月 | 8,604 | 104.0% | 470 | 104.6% | 845 | 103.2% | 209 | 209 |
| 3月 | 9,238 | 99.7% | 494 | 102.9% | 865 | 101.6% | 215 | 219 |
| 1年間小計 | 103,870 | 100.9% | 5,593 | 100.3% | 10,009 | 101.1% | 227 | 216 |

雛餌付羽数は3月までの1年間でほぼ前年度並みとなっています。配合飼料出荷量も同様、ほぼ前年並みとなっています。鶏卵家計量は3月までの1年間では前年消費量よりやや増加しています。

【協会活動報告】 [\(下線色付き部分はホームページに連結\)](#)

①各種事業についての報告

[\(1\) 鶏卵生産者経営安定対策事業](#)

価格差補填事業の事業参加者との契約数量 (月当たりト)

| | |
|--------|---------|
| 平成25年度 | 164,822 |
| 平成26年度 | 160,792 |
| 平成27年度 | 161,936 |
| 平成28年度 | 164,846 |

4月の標準取引価格 208.75 円/Kg (補填なし)

28年度補填基準価格 189 円

安定基準価格 169 円

[\(2\) 国産鶏卵普及拡大対策事業](#)

本年も11月5日の「いいたまごの日」を盛り上げるために、オムライスリーフレット配布を行うこととしました。昨年よりも早めに販促活動を行うべく関係先に働きかけを行っていきます。

(3) 畜産物輸出特別支援事業（鶏卵輸出準備分科会）

- ・5月18日に28年度畜産物特別支援事業の一環として、第1回ロゴマーク利用拡大検討委員会が開催され、ロゴマークを付けた「日本のたまご」の基準等について検討がなされました。
- ・5月19日に鶏卵輸出準備分科会第2回理事会が開催され、27年度事業報告案、収支決算案、28年度事業計画案、28年度予算案等が了承され、6月7日に開催される第2回通常総会に提出されることとなりました。

②各種会議についての報告

・鶏卵生産者経営安定対策事業委員会

5月6日と25日に鶏卵生産者経営安定対策事業委員会が開催され次期鶏卵生産者経営安定対策事業について検討がなされました。

・審議委員会

5月24日に第1回審議委員会が開催され、平成27年度鶏卵生産者経営安定対策事業の手数料の収支状況及び特定資産の推移について検討がなされました。

・正副会長会議、理事会

5月25日に正副会長会議、理事会が開催されました。理事会において6月の通常総会提出議案(27年度事業報告、28年度予算案等)が可決されました。

・今後の予定

- 6月7日（火）鶏卵輸出準備分科会 通常総会
- 6月8日（水）国産鶏卵普及問題対策委員会
- 6月15日（水）鶏卵公正取引協議会 通常総会
- 6月16日（木）日鶏協通常総会
- 7月1日（金）国産鶏普及協議会総会

【日鶏協ニュース】 発行者：一般社団法人 日本養鶏協会

〒104-0033 東京都中央区新川二丁目6番16号馬事畜産会館内（5階）

TEL：(03)3297-5515 FAX：(03)3297-5519 発行日 2016年5月26日

編集・発行責任者：島田博(fuwatama@jpa.or.jp)